

も り 森 林 の 話

若手職員のコーナーです

第41話
網走南部森林管理署
竹本 碧

新規採用で網走南部森林管理署に着任してから、早くも3年が経ちました。日々のどかな畑の風景、そして斜里岳や知床連山といった山々に囲まれて過ごすことができるこの場所は、今では地元以上にほっとできる場所です。

さて今回は少し季節外れではありますが、私が現在所属している峰浜森林事務所（斜里町）において、多くの時間を費やした冬期の現場業務における必需品と業務内容について紹介します。

【冬の業務に欠かせないスノーモビル】

除雪されず雪に閉ざされている林道が多い斜里・峰浜地区では、山に向かうためにスノーモビルが欠かせません。右の写真は私が愛用している一台です。黄色と黒の目立つデザインがとってもクールですよ！



スノーモビルの運転は、方向をコントロールするための腕力と体重移動がとても重要です。素早い体重移動や、風で波打った雪面から伝わる衝撃を和らげるため、走行中は基本的に中腰で立ち乗りをします。私は新雪の林道をまともに走ったのは今冬が初めてで、行く先々で埋まりに埋まり…。運転操作や埋まった所からの脱出など、想像以上に筋力・体力が必要で、とにかく大変でした。危うくスノーモビルが嫌いになりそうでしたが、慣れると気分爽快です♪林道の雪はなかなか解けないため、4月上旬まで活躍してくれました。

【スノーモビルに乗って「地況林況調査」へ】

この日の業務は「地況林況調査」です。これは、5年ごとに策定される国有林の施業方針「国有林

野施業実施計画」を樹立するため、国有林内の木材の蓄積量や植生等の状況を調査し、伐採方針等を検討するものです。1つの森林事務所あたり数百にもなる調査箇所を、約4年半かけて地道に踏査していきます。

今回スノーモビルで向かった先は、斜里岳山麓のとある林内です。この場所は夏になると2mを超える笹が生い茂り、とても歩けたものではありません。そのため、実は冬のほうが調査に適しているのです。

スノーシューを履いて林内を歩き、測点を決めます。その付近にある数本の平均的な樹木の樹種、胸高直径、樹高を記録するとともに、全天球カメラを用いて林内の状況を360度撮影します。この作業を1つの調査地で複数箇所繰り返し、帰所後に専用の集計ツールを用いて、調査地全体の立木本数や木材の蓄積量を算出します。本来は下層植生などの地況も確認しますが、今回は雪で覆われていたので、積雪前の巡視で把握していた情報を踏まえながら、算出結果と併せて施業方針を検討しました。こうした地道な作業が、巡り巡って国土の保全へと繋がっていきます。

【おわりに】

「なぜ冬に山に行くの？」と不思議に思った方もいるかもしれません。でも実は冬だからこそ入りやすい山や、冬に行うのが適している調査もあります。今回はそんな、ちょっと意外な「冬の現場業務」の一面をご紹介しました！

昭和51年植栽トドマツ人工林

平成29年1回目列状間伐実施

林内を撮影する様子

